

弥生時代の「弥生」という呼び名の元となったのが、「弥生土器」です。弥生時代の前の時代の縄文時代もまた「縄文土器」からその時代の名が付けられました。では、その弥生土器とは、いったいどのようなものなのでしょうか？

土器といえば、ねん土で形を作り、焼き固めることで仕上げた器のことを言います。弥生土器の主な種類には、甕、壺、高坏、鉢、器台があります。甕は主に食物の煮炊きに、壺は食料の貯蔵に、高坏や鉢は盛り付け用として利用されていました。妻木晩田遺跡でも、右の写真のような土器がたくさん出土しています。



弥生土器に「弥生」の名が付けられた、その元になったものは、次のうちどれでしょう。

- ①人名 ②地名 ③もよう ④弥生(3月)に見つかったから ⇒ ()

本来ならねん土をよく練り、じょうぶにするために砂を混ぜ込みますが、今回は、陶芸用のねん土を使って土器作りをするので、この作業は、はぶきます。(今回は、甕を作ってみましょう)

チャレンジしよう

「土器づくり」に挑戦しよう！

【準備】ねん土、ねん土板、回転台、竹ぐし、たこ糸、かき出しペラ、しか革



①直径5cm、厚さ1.5cmくらいの底を作ります。



②直径1～2cmのねん土ひもを作り、輪の形にして積み上げていきます。



③指の腹を使って、内側に押し込むようにして、土器のへき面を整えます。



④一番太くなる所まで6段積み上げたら、その上2段は輪を小さくしてすぼめます。



⑤口縁の部分を作り、回転台を回しながら全体がうすくなるよう外側と内側をけずります。



⑥しか革を使って表面をなめらかにし、貝や竹ぐしなどを使って模様を付けます。

⑦最後にたこ糸を使って、回転台から切り離せば完成です。

◎土器作り体験を終えて

これらの土器は、1ヶ月間自然かんそうさせた後、野焼きや電気窯で焼き上げます。できあがりを楽しみですね。

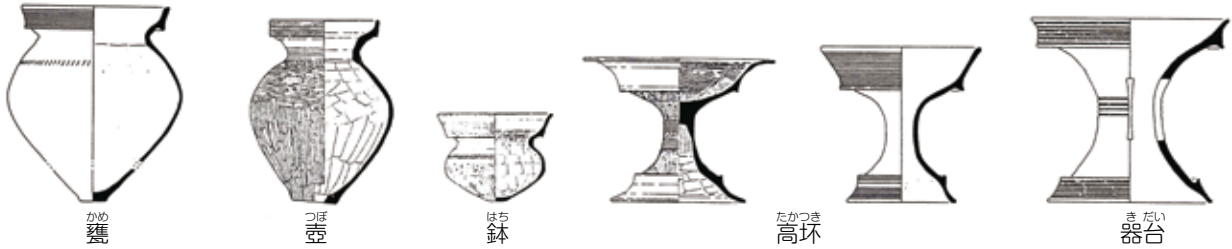
野焼き



豆知識 1

弥生土器と縄文土器とのちがい

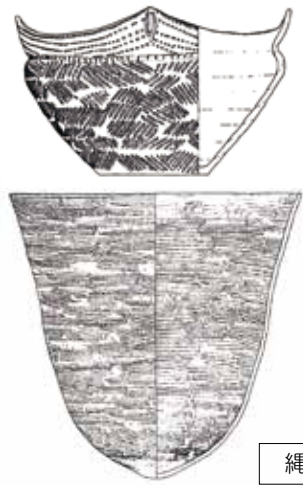
1884 (明治17) 年、その当時の東京市本郷向ヶ岡弥生町 (現在の東京都文京区) の貝塚で、前から知られていた縄文土器とは違う土器が発見されました。この土器を発見した地名をとって弥生土器と呼ぶようになりました。



弥生土器

弥生土器は、縄文土器に比べ、うすく文様もシンプルに作られています。これは、米作りと共に大陸からもたらされた技術です。この米作りの伝来は、土器の形にも変化をあたえました。それまでの縄文土器とはちがい、壺のような穀物を貯蔵するための形が生まれたのです。

ちなみに縄文土器とは、かりや採集を中心にした生活で使われていた土器で、厚く模様や形にこだわったものが多く見られます。種類は少なく煮炊き用の深鉢と盛り付け用の浅鉢がほとんどです。

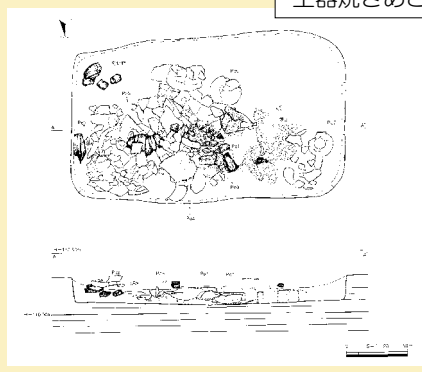


縄文土器

豆知識 2

妻木晩田遺跡で見つかった野焼きあと

土器は焼き上げることで、かたく、じょうぶになります。今は、釜を使って焼いていますが、妻木晩田遺跡では、土器焼きをしたあとが見ついています。穴をほり、土器を積み上げて、焼いていたことが分かっています。



土器焼きあと

※みなさん、かっこいい弥生土器ができましたか？ 今日の「土器作り」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。

Handwriting practice lines for students to write their reflections on the pottery-making experience.